

123.急性期精神科病棟入院患者の栄養摂取状況及び栄養状態に関する研究

研究の概要

精神疾患のある患者で肥満や低体重のリスクがあるといわれています。その要因として、嗜好の偏りや食生活が影響した過食や拒食、活動量の低下によるエネルギー消費量減少や筋肉量減少、入院日数の長期化などがあげられます。加えて、高齢者においては食事量低下による低栄養状態やサルコペニアなども発症すると言われており、急性期病院から慢性期病院への転院の際の、栄養状態の低下による治療への影響を減らす必要があります。このことより、入院中の栄養管理が重要です。しかし、本邦による急性期病院における報告はありません。本研究による、急性期精神科病棟入院患者の栄養摂取状況及び栄養状態についての検討が急務であります。

研究の目的と方法

本研究の目的は、急性期精神科病棟入院患者の栄養摂取状況と栄養状態について検討することです。日常診療で得られた臨床データ(年齢、血液学的検査、摂取エネルギー量およびたんぱく質量、疾患など)を電子カルテから集計・統計分析を行う後ろ向き研究です。

本研究の参加について

これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

調査する内容

本研究は、令和2年4月1日～令和2年9月30日の期間中、国立病院機構熊本医療センター精神科病棟へ入院された患者さん約100例を対象としています。新たに試料・情報を取得することではなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。

調査期間

研究対象期間:令和2年4月1日～令和2年9月30日まで

研究実施期間:倫理委員会承認後～令和4年3月31日まで

研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し、学会や論文で発表します。また、個々の患者さんのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 柴田千尋

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 柴田千尋

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 柴田千尋
TEL : 096-353-6501